INFORMATION Circular

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

■第30回大会開催によせて……平林民雄……1
■ＤＧＤ編集主幹を辞めて －お礼の言葉－ ……星　元紀……1
■運営委員会議事録……3
■ＤＧＤ編集委員会のお知らせ……6
■日本発生生物学会運営委員会のお知らせ……6
■「10年目の反省に向けて」への助成……浅島　誠……6
■発生に関する国際シンポジウムのお知らせ……8
■(財)加藤記念会バイオサイエンス研究振興財団
第９回加藤記念海外派遣助成について……12
■公益信託　成茂動物科学振興基金……13
■本会関係各種賞および助成金一覧……14
■会員異動……16
■日本発生生物学会への入会について……22
■賛助会員入会、広告掲載のお願い……24

NO.86

APRIL　1997

日本発生生物学会

〒153　東京都目黒区駒場３－８－１

東大・院・総合・生命環境系(生物)

会　　長：〒 300　茨城県土浦市湖北２丁目５－10
岡田益吉（Tel: 0298-22-7348, Fax兼用
e-mail: flyokada @ biol. tsukuba. ac. jp
drok7 @ da2. so-net. or. jp

1996年12月まで
ＤＧＤ編集主幹：〒 226　横浜市緑区長津田町4259
東京工業大学生命理工学部
星　元紀（Tel :045-924-5720）
（Fax:045-924-5777）
（e-mail:dgdhoshi @ bio. titech. ac. jp）

1997年１月より　〒 739　東広島市鏡山１－３－１
広島大学理学部遺伝子科学専攻
嶋田　拓（Tel :0824-24-7446）
（Fax:0824-24-7498）
（e-mail:dgdedit @ ipc. hiroshima-u. ac. jp）

事　務　局：〒 153　東京都目黒区駒場３-８-１
東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境系
Fax: 03-3485-2904（生命系事務室）
（この場合は必ず浅島の名前を入れて下さい）
（幹 事 長）浅島　誠（Tel: 03-5454-6632(直通)）
（Fax: 03-5454-4330(研究室)）
e-mail: cmasa @ komaba. ecc. u-tokyo. ac. jp
（庶務幹事）松田良一（Tel: 03-5454-6637(直通)）
e-mail: cmatuda @ hongo. ecc. u-tokyo. ac. jp
（会計幹事）福井彰雅（Tel: 03-5454-4397(直通)）

学会センター：〒 113　東京都文京区本駒込５－16－９
財団法人　学会事務センター
日本発生生物学会担当係（Tel: 03-5814-5810）

日本発生生物学会への入退会，住所・所属変更，会費納入，および出版物（ＤＧＤ，インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については，上記の日本学会事務センターに書面でお問い合わせ下さい。

サーキュラーへの投稿募集

日本発生生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年３回発刊されます。学会に対する提言，研究雑感，実験手法，学会見聞記，関連学会案内，書評等どのような内容でも結構ですので，是非事務局にお寄せ下さい。

宛先：〒153 東京都目黒区駒場３－８－１
東大・院・総合・生命環境系(生物)
日本発生生物学会事務局
Fax: 03－3485－2904（担当 浅島）

第30回大会開催によせて

大会準備委員会委員長　平　林　民　雄

ここ数日の気温の激しい変動が我々の準備委員会をせき立てているように感じています。準備は着々と進んでおりますが、会員の方々全員が申し込みを正しくやって頂くことが如何に運営事務を円滑にするものかを痛感しております。

今大会には300題近くの申し込みを頂きました。発表者に満足していただくために個々の発表時間は短くしない、多くの口演を聴けるように会場数を増やさない、あまり移動しなくても良いように関連内容は纏める、などの点を配慮しながら、口演とポスター発表に分けることは楽しそうで案外苦しい仕事です。また今大会では動物学と植物学の更なる融合を願って、植物分野の方々にも発生生物学会に関心を持って頂くべく、植物の発生をシンポジウムの主題に据えました。植物学分野の研究者は勿論、非常に多い動物学分野の研究者もたとえ我慢してでも「お勉強」と思って絶対に参加していただきたいと思います。

なお、今回は本大会のホームページを開きました。アドレスはhttp://www.biol.tsukuba.ac.jp/~maru/JSDB/です。大会日程、プログラム、シンポジウムの案内などがご覧になれます。ご希望の方は講演要旨を電子メールで送って頂ければ掲載致します。詳細はホームページを参照して下さい。また筑波大学周辺の宿泊、交通、食事処などの情報を提供しているページも紹介しています。このホームページ開設ははじめての試みですので試行錯誤の部分が多いかと思いますが、ご利用頂ければ幸いです。大会の頃には大学構内は緑に包まれた素晴らしい光景になると思われます。大会の前後には是非とも構内を散策していただき、まだ成長途上にある筑波大学を見ていただきたいと存じます。

ＤＧＤ編集主幹を辞めて－お礼の言葉－

星　元紀

昨年末、ＤＧＤ編集主幹を嶋田　拓先生に引き継ぎました。本来ですと、「ＤＧＤ編集主幹を退任するに当たって」という小文が、新主幹のご挨拶とともに本誌前号に載るべきなのですが、すでに手掛けていた原稿は最後まで私がお世話するということになりましたため、昨年末の時点ではご挨拶をする気分になれませんでした。ようやく、ほぼ総ての原稿に見通しが立ち、遅れ馳せながら会員の皆様にお礼のご挨拶を申し上げる次第です。

任期中の３年間は、ＤＧＤにとってはある種の変革期でもありました。編集主幹となる

に当たって、先ず編集委員の数を増やすとともに Associate Editors, Advisory Board を設けましたが、Advisory Board には内外の著名な方に参加をお願いし、お知恵を拝借するとともに、まことに失礼ながらある種の宣伝効果を期待させていただきました。一方、学会の英断によりＤＧＤの製作・販売を Blackwell Sci. 社に委託する方針が既に固まっておりましたので、移行に当たっていかに混乱を少なくするかというのが当面の大きな課題でした。Blackwell Sci. 社への委託第一号である３７巻１号の出版には、大きな期待を寄せましたが、配布が大幅に遅れたり、写真印刷の質が低下したりといった事態となり、いささか出鼻を挫かれる結果となりました。このような混乱もありましたが、学会の経済的負担は相当に軽減され、翌３８巻からは表紙写真のカラー化とカラー図版印刷費の一部学会負担、３９巻からは表紙デザインの一新と表紙写真の大判化などが可能になりました。嬉しいことに原著論文の投稿数はこの３年間で約４５％増加しましたが、その結果、採択決定までの時間をいくら短縮しても、その後出版までの待ち時間が伸びてしまい、投稿から出版までの時間は逆にむしろ遅れ気味となっております。この点を改善するために、Blackwell Sci. 社の好意により無償で年間出版頁数を増やしましたが、未だ十分ではなく問題を今後に残してしまいました。

この３年間はまた、電子メディア、特に電子メールが爆発的に普及した時でもありました。電子メールは著者や審査員との通信に活用させてもらいましたが、特に国外の方との通信時間・経費の節減には劇的ともいえる効果がありました。また、採択後フロッピーを送っていただくことにしましたが、製作・印刷業務も相当に軽減された筈です。そろそろ、電子出版の準備も必要ではないかと思っております。

お蔭さまで３年間の任期を、よろけながらも何とか全うすることが出来ました。これも江口吾朗、岡田益吉両学会長をはじめとする役員・会員諸氏の暖かいご援助の賜物と心より感謝いたしております。特に、ご投稿いただきました方々、審査をお願いしました方々、編集委員ならびに学会運営委員の皆様には、心ならずも無理なことや随分と失礼なことを多々申し上げました。この場を借りてお詫び申し上げます。正直なところ、この３年間はかなり緊張を強いられる日々でもありましたが、学問の進歩と学会の発展におよばずながらも益するところがあるのだと信じておりました。さて、本当にそうであったのかどうか。この点は、今後のご批判に待ちたいと思います。編集主幹退任のご挨拶を終えるに際し、この間、黙々と献身的に事務を処理し続けてくれた清水美智恵氏に感謝の意を表したいと思います。

運営委員会議事録　平成9年1月16日

場　所：　東京大学駒場キャンパス15号館第一会議室

出席者：岡田益吉会長、相沢慎一、浅島誠（幹事長兼運営委員）、上野直人、片桐千明、黒岩厚、近藤寿人、嶋田拓、団まりな、中辻憲夫、仲村春和、西田宏記、平林民雄（次回大会委員長）、福井彰雅（会計幹事）、松田良一（庶務幹事）

会長の挨拶（岡田会長）に引き続き、以下の報告と審議に入った。

幹事長報告（浅島幹事長）

・選挙結果報告。　サーキュラー85号参照。
・学会事務センターの発生生物学会担当者が唐沢静子さんから伊藤宏治さんに交代した。それ故、学会事務センターに問い合わせる時は、伊藤さんにして下さい。
・会費未納者の取り扱いについて。在外会員のうち10年間の会費未納者３名を除名することにした。国内の会員は２年間以上会費を滞納すると自動的に除名することは既に、前回の大会で承認されている。外国人についても同様の取り扱いとして差し支えないことを改めて確認した。
・ISDBの次回大会について、サーキュラー85号に載せているので、多くの会員が参加して欲しい。また、大会本部に出来るだけ会員に案内「Call for Abstract」を送ってもらうように依頼した。
・各種財団から研究助成が来ているので、推薦を希望する方は締切の１ヶ月前までに事務局に届けて下さい。

庶務報告（松田庶務幹事）

・平成８年12月20日現在の会員数は正会員　959名、学生会員　270名、賛助会員　11名、合計1,240名である。
・サーキュラー83～85号（122頁）を発行した。
・会員名簿を６月に発行した。ファックス番号とE-mail addressを新たに加えた。会員各位の迅速なご協力に感謝いたします。その際、一部入力ミスにより会員にご迷惑をおかけしたことお詫びを申し上げます。
・入力ミスの修正分および新入会員と変更のあった会員分の名簿を12月に追加した。
・サーキュラー84号に述べたとおり、４年以上の会費未払い者72名のうち、会費を全額支払った会員数名を除き、全員を除名とした。なお、京都大会で研究発表した時点で

未入会者が20名いたが、そのうち７名は今現在、未入会のままである。彼らは院生であるケースが多いので、特に連名で発表した指導教官に会費を至急納入するように指導し、注意して貰うよう連絡する。

会計報告（福井会計幹事）

・1996年の決算および、1997年度の予算案が示された。
・テレホンカードが関係者のご協力で完売したのを契機に、特別会計にあったＤＧＤ基金は一般会計に組み込み、特別会計を廃止した。
・ＭＩＭＯＳ会議　(Migration, Morphogenesis and Substratum会議）の事務局（西山一朗会員）から65,485円の寄付があり、お礼を申し上げた。

ＤＧＤ編集委員会報告（嶋田編集主幹）

・96年度の実績は別表の通り。
・次第に採択から印刷まで時間がかかるようになってきた。現行の隔月発行を毎月にするか、総ページ数を大幅に増やすか検討中である。論文１本あたりのページ数をできるだけ少なくするよう投稿者にお願いするのも一つの解決策である。
・カラーページ代が高いので、投稿者の負担が大きい。
これらの件につき、その解決策をBlackwell社と交渉している。また、学会としてもどこまで負担が可能かについても、カラーを入れる方向で検討していくことにした。
・Blackwell社から投稿者にリプリント代の請求書がリプリントが届く前に来るが、リプリント到着後に送金しても問題がないので、そのように対応して欲しい。この件については、問題がないことを再度、Blackwell社に確認する。
・Associate editor 制をなくし、学問分野や研究材料などの視点から８人のEditori制とした。
・Editorial boardを何人か入れ替えて、新しく国内外の14名で構成することにした。
・Advisary boardに江口吾朗、片桐千明、岡田益吉会員の他にN. LeDouarin氏を加えて、国内外の16名で構成することにした。
・Subscription fee（外国向け販売用）に個人購読者価格を設定することをBlackwell社と協議する。
・ＤＧＤが医学関係のユーザーが多いMedlineにのった。
・ＤＧＤの著作権に関する書類は編集委員会ではなく、事務局で扱う。

本年の大会について（平林大会委員長）

・準備は順調に進んでいる。シンポジウムを「植物の発生」をテーマに企画している。
・ワークショップは４つ行う予定であるので、積極的に企画して欲しい。

・要旨集を１頁あたり、A4版で２題掲載することにした。
・発表時間は12分プラス討論３分の計15分間とし、少し発表討論時間を長くした。

来年の大会の準備状況（安部真一大会委員長の代理として、相沢慎一運営委員）

・平成10年５月28日(木)～30日(土)の３日間、熊本市の産業文化会館にて開催の予定。

審議

(1) (社)本動物学会が提案しているガイアリスト21計画について審議し、日本発生生物学会もこれに賛同することにした。

(2) 第17期日本学術会議会員候補者および、推薦人の候補者について。
日本学術会議会員推薦管理会（委員長、近藤次郎）より、本学会に対し第17日本学術会議会員候補者および、推薦人の候補者の届け出の依頼があった。これについて審議し、日本学術会議会員候補者に東工大の星元紀会員を推薦することが承認された。また、推薦人および推薦人予備者には浅島誠会員、岡田益吉会員（その後、都合により八杉貞夫会員に変更）をそれぞれ選出した。

(3) 本学会の運営委員選挙における次点者が同票の場合の取り扱いについて審議し、年令の若い順とすることが提案され、承認された。

(4) 発生生物学会の大会の在り方について議論があり、学会としては原則的には開催校または大会委員会に一任するが、大会要旨集の体裁については、内容的に充実した抄録提出を発表者に義務づける方が良い、また、あまり会場数を多くしないで、充分討議ができるように工夫して欲しい、などの意見が出された。しかしながら、現実的には演題数が年々多くなり、要旨集が厚くなってきているので、一概に結論づけることはできないが、発生生物学会の良き伝統を配慮して計画して下さるよう、その都度、運営委員長から大会実行委員会に伝達する。

(5) 恒例の「10年ごとの反省」を来年の熊本大会で行う際の責任者について審議し、浅島幹事長にお願いすることで合意した。

(6) 来年（1998年１月）以降の事務局を東京都立大学の八杉貞雄会員にお願いすることで、合意した。

(7) 1997年度の会計監査委員は筑波大学の高橋三保子会員と三菱化学生命研の富樫伸会員にお願いすることで合意した。

以上（記録、庶務幹事　松田良一）

ＤＧＤ編集委員会のお知らせ

日時：平成９年５月26日（月）　午後２時～４時
場所：筑波大学大学会館３Ｆ第３会議室

日本発生生物学会運営委員会のお知らせ

日時：平成９年５月26日（月）　午後４時～６時
場所：筑波大学大学会館３Ｆ第３会議室

「10年目の反省に向けて」への助走

幹事長　浅島　誠

今年の１月に開催された日本発生生物学会の運営委員会において、岡田益吉会長から「来年、熊本で開催される大会は、この日本発生生物学会の設立時の申し合わせにより、10年目の反省の年にあたるので、学会としても今からこの課題について対応したい。」旨の発言がありました。そこで運営委員会で審議した結果、この課題のとりまとめの検討委員会の責任をおおせつかりました。私は微力でありますので、その任に適当かどうかわかりませんが、引き受けることにしました。その折、どのような反省をするのかについて少し議論があり、相沢委員が今、多く行っている他学会も含めての「アンケート方式」ではすでに解答が決まっているようなので、実質的なものを今回、考えた方がよいのではないかという提案がありました。そこで相沢先生にも是非、この検討委員会に加わってもらい、「10年目の反省に向けて」の検討を開始することになりました。現在の発生生物学会は、科研費の審査の分類でもわかるように、複合領域に入っており、理学、医学、農学、薬学、教育学、歯学、工学系など、様々な分野の人達によって研究されており、また、官、民の枠を超えて研究者は急速に増えています。このような現状は研究者が発表するジャーナルにも大きな変化を及ぼし、学会の機関英文誌Development, Growth & Differentiationの投稿数の増加と内容の変化にも見られます。国外に目を転ずれば、実験発生学を創設し、常にこの分野をリードしてきたRoux's Arch. Develop. Biol., はついに時代の変化の対応にせまられて、Roux の名前がなくなりDevelopment Genes and Evolution と名称を変えましたし、Development, Gene & Development、Mechanism of Development、Develop. Biol. などもその内容と質も変化させています。このようにしてみると、この10年間で生命科学の中における発生生物学の発展は、国内外ともに非常に大きなものがあったのではないかと思います。

ただし一方でこのような流れが大きくなればなるほど、本当にこのままでよいのかといった反省が強くなっているのも事実です。特に日本で育ってきた素晴らしい研究の流れが止まったり、消えたりしているのも現実で、これでよいのかとの反省も多くあります。遺伝子の解析が中心となっているような流れが本当に発生生物学の中心課題への解決に向かっているのだろうか。研究環境の改善や研究材料の拡大など多くの問題が残されています。今回は下記のような事柄について考えてみようかと思っていますが、会員の皆様方にも是非、この際、検討すべき課題があればお知らせいただければ幸甚です。

検討課題（仮）

※これは たたき台の課題の例で、あくまで参考と思って下さい。むしろ会員の方から検討課題案を提出していただけると有り難いです。

1.学会の運営と組織のあり方
2.大会のあり方
3.学会と社会とのつながりについて
4.日本の発生生物学の現状と課題
5.世界の発生生物学の現状と課題
6.これからの発生生物学はどこにゆくのか
  (1) 今の遺伝子解析を主としたテクノロジーの流れに先が見えてきたか
  (2) 限られた生物種を使った分子発生生物学から多様性の発生生物学への展開か
  (3) 残された大きな発生生物学の課題とは
7.会員間のコミュニケーションのあり方
  DGD、サーキュラー、シンポジウムのあり方
8.研究環境の改善と研究費の確保について
9.その他

これらの検討課題についての御意見や、追加すべき課題などありましたら、事務局へ連絡下さい。運営委員会でも検討したいと思っています。会員の皆様方の御意見をお待ちしています。

連絡先： 日本発生生物学会　事務局
「10年目の反省に向けて」
検討委員会委員長　浅島　誠
〒153　東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科
広域科学専攻生命環境科学系
Tel. 03-5454-6632
Fax. 03-5454-4330
e-mail : cmasa@komaba.ecc.u-tokyo.ac.jp

発生に関する国際シンポジウムのお知らせ

京都大学では、毎年「International Kyoto Life Science Symposium」を開催しております。このシリーズは、利根川進MIT教授（京都大学客員教授）の発案により創設され、毎年異なったテーマの下に先鋭的な研究者が一同に会し、その分野における最近の話題を議論するものです。今秋、「発生」をテーマとして、第4回シンポジウムを以下のように開催します。

主題：Development and Organization of Complex Multicellular Systems
日時：1997年11月6 - 7日
場所：京都国際会議場

予定講演者：
Richard Axel (Columbia Univ)
Cori Bargmann (Univ California, San Francisco)
Sean Carroll (Univ Wisconsin)
John G. Flanagan (Harvard Univ)
Corey S. Goodman (Univ California, Berkeley)
Yuh Nung Jan (Univ California, San Francisco)
Andy McMahon (Harvard Univ)
Christiane Nusslein-Volhart (Max Planck Institut)
Norbert Perrimon(Harvard Univ)
Susumu Tonegawa (MIT)
影山龍一郎　(京都大)
廣川　信隆　(東京大)
堀田　凱樹　(東京大)
西田　栄介　(京都大)
野田　昌晴　(基生研)
佐藤　矩行　(京都大)
月田承一郎　(京都大)

細胞生物学的な問題から、胚のパターン形成、脳の高次機能形成に至るまで、発生生物学会における通常のトピックスの枠を越えて、より幅広い見地から「体の形成のしくみ」について討論する予定です。皆様のご参加をお待ちします。とくに、学部学生、大学院学生を含めた若い方々の参加を歓迎します。当日の参加は自由ですが、整理の都合上、以下

の事務局にあらかじめ参加申込をしていただく予定です。より詳細については、後日サーキュラー、ポスターなどによりお知らします。なお、本シンポジウムは、文部省新プログラム方式による研究「発生・形態形成の個体レベルにおける分子生物学的研究」班との共催により行うものですが、その前日（11月5日）には、本班の公開シンポジウムも行う予定です。これについても、後日サーキュラー、ポスターにて詳細をお知らせしますので、併せてご参加いただければ幸いです。

本シンポジウムの開催責任者：竹市雅俊（京都大学大学院理学研究科生物科学専攻）
電話　075-753-4196,　Fax 075-753-4197
事務局：インターナショナル京都ライフサイエンスシンポジウム事務局
〒606京都市左京区吉田河原町14　近畿地方発明センター（株）コングレ内
電話　075-752-0888,　Fax 075-762-2304

庶務幹事よりお詫びとお知らせ

昨年6月と12月にお送りした会員名簿とその追加訂正版のどちらにも記載されていない会員が数名おられることが判明いたしました。ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。その方々とその後の新入会員の方々の分をまとめて再追加版としてこのサーキュラー86号にはさみ込みましたので、あわせてご活用下さい。

（庶務幹事　松田良一）

THE THIRTEENTH INTERNATIONAL CONGRESS OF DEVELOPMENTAL BIOLOGY

SNOWBIRD, UTAH, USA
July 5 - 10, 1997

The International Society of Developmental Biologists (ISDB) and the Society for Developmental Biology (SDB) will jointly sponsor the 13th International Congress of Developmental Biology, to be held in Snowbird, Utah, USA, from July 5 - 10, 1997.

All speakers listed in the program overleaf have confirmed their participation. More invited speakers will be added, as well as talks chosen from submitted abstracts. Poster sessions, education workshops, video displays and special interest groups will be scheduled. SDB members will pay a reduced registration fee. Electronic abstract submission will be available. Limited student dorm accommodation will be available on a first come-first served basis.

For more information and request for registration/abstract package please mail or Fax this form to

Ida Chow, Ph.D., Executive Officer
Society for Developmental Biology
9650 Rockville Pike
Bethesda, MD 29814-3998 USA

Fax: 301-530-7049

You can also registered your interest via the SDB web page: http://sdb.bio.purdue.edu

ALL CURRENT SDB MEMBERS WILL RECEIVE THE PACKAGE

ISDB/SDB INTERNATIONAL CONGRESS OF DEVELOPMENTAL BIOLOGY

Request for registration/abstract package (PLEASE PRINT CLEARLY)

Name _____
First Middle Last

Address _____
Department Institution/Company

_____
Street Address

_____
City State Country Postal Code

Please check:	intention to attend the Congress only	*Yes*	☐	*No*	☐
	intention to submit an abstract	*Yes*	☐	*No*	☐
	need student house	*Yes*	☐	*No*	☐

THE THIRTEENTH INTERNATIONAL CONGRESS OF DEVELOPMENTAL BIOLOGY

Jointly sponsored by the
International Society for Developmental Biologists
and the
Society for Developmental Biology

Snowbird, Utah, USA
July 5 - 10, 1997

PROGRAM

Opening Nobel Symposium

Edward Lewis (USA)
Christianne Nusslein-Volhard (Ger)
Eric Wieschaus (USA)

Plenary Sessions

Establishing Asymmetries
Judith Kimble (USA)
Ruth Lehmann (USA)
Hiroshi Hamada (Japan)
Ira Herskowitz (USA)
David McClay (USA)

Neural Development and Patterning
Friedrich Bonhoeffer (Ger)
Marc Tessier-Lavigne (USA)
Linda Buck (USA)
Joe Culotti (Cda)
Masatoshi Takeuchi (Japan)
Marianne Bronner-Fraser (USA)

Pattern Formation in Development and Evolution
Elliott Meyerowitz (USA)
Steven Cohen (Ger)
Rosa Beddington (UK)
Cliff Tabin (USA)
Walter Gehring (Switzerland)
Paul Sternberg (USA)

Signalling Pathways in Development
Lee Niswander (USA)
Trudi Schupbach (USA)
Philip Ingham (UK)
Roel Nusse (USA)
Joanne Chory (USA)
Naoto Ueno (Japan)

Concurrent Symposia

	Chairs
Lineage analysis and cell fate	*Patrick Tam (Australia)*
Genetic regulation of organogenesis	*Greg Dressler (USA)*
Gene regulation in development	*Herbert Jackle (Ger)*
	Michael Levine (USA)
Localization of determinants	*Anne Ephrussi (Ger)*
Eye development	*Robert Grainger (USA)*
Signalling pathways in development	*Patricia Simpson (France)*
Floral development	*Detlef Weigel (USA)*
Development and evolution	*Rudolph Raff (USA)*
	Scott Poethig (USA)
Inductive interactions in development	*Hazel Sive (USA)*
Patterning the developing body axes	*TBA*
Germ line devleopment	*Anne McLaren (UK)*
Cell type specification	*Margaret Buckingham (France)*

(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団
第9回加藤記念海外派遣助成について

〔第9回加藤記念海外派遣助成募集要項〕

1. 助成対象者：1997年 4月 1日から1998年 3月31日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で研究発表を行う研究者
2. 申込資格：応募締切日に35才以下の方（医学系の大学卒業者は37才以下の方）
3. 助成内容：所要経費の一部を援助する
4. 助成金額：総額 740万円
5. 援助件数：30件程度（ 前期; 21件程度、後期; 9件程度）
6. 応募方法：当財団所定の申請用紙に必要事項を記入の上、当財団に直接申し込む
7. 応募締切：①前期;4/1～9/30の期間に発表される方は、1997年 5月31日
   ②後期;10/1 ～翌年3/31の期間に発表される方は、1997年 8月31日
8. 審査方法：当財団の選考委員による審査の上、理事長および評議員会議長の承認を得て決定
9. 申請書の請求先および送付先：下記あて「はがき」または「ファクシミリ」にてご請求ください

連絡先：（財）加藤記念バイオサイエンス研究振興財団
住所：〒194 東京都町田市旭町3-6-6
☎ ：0427-25-2576
FAX ：0427-22-8614
担当：吉柳　信子

公益信託　成茂動物科学振興基金

平成９年度研究助成

1. 助成の対象　　基礎的な動物科学の研究。

2. 助成の内容　　上記研究に対し、助成金を交付する。
助成金額　：　約３００万円
１件につき１００万円以下とする。
助成金は、備品、消耗品、謝礼、国内旅費などのほか、
国外旅費にも使用することができる。

3. 応募の方法　　所定の研究助成申請用紙に必要事項を記入して、
下記事務局に直接申し込む。
申込〆切　：　平成９年７月18日（金）必着。
申請用紙は、返信用封筒（Ｂ５版）を同封の上、
下記宛請求する。

公益信託　成茂動物科学振興基金事務局
〒100　東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱信託銀行本店営業部
公益信託推進室　担当　小林

本会関係各種賞および助成金一覧

●学会の推薦を必要とする場合には、この締切の１ヶ月前に学会内で選考のため締切りますので御注意下さい。
尚、締切に関しては年により変更がある場合があります。

賞名	授賞団体	授賞件数	提出締切	賞金額	受賞資格
持田記念研究助成	(財)持田記念医学・薬学振興財団 03-3358-7221 160 東京都新宿区四ッ谷1-7	42件	6月末	1件100万円	「生命科学・薬物科学・情報科学・生体工学」と医療尾魚用の研究
持田記念留学補助		10名	6月末	1件50万円	留学期間は1年以上
持田記念学術賞		2名	7月末	1名300万円	顕著な功績のある研究を行っている研究者
公益信託・成茂動物科学振興基金	公益信託・成茂動物科学振興基金 03-3212-1211 ext4052 100 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱信託銀行本店営業部法人相談室	約600万円	7月31日必着	1件につき100万円程度まで	基礎的な動物科学の研究
日産学術研究助成(A) (B)	(財)日産科学振興財団 03-3546-5597 104 東京都中央区銀座6-17-2	約10件	8月末	1件 1,500万円程度	(A) 研究が長期にわたる学際的グループ研究
		約10件	8月末	1件150～300万円程度	(B) 独創的な短期間の研究または本格的な研究への調査・準備的研究
日産学術奨励研究助成		約15件	8月末	1件200万円まで	若手研究者（35歳以下）の萌芽的個人研究
加藤記念研究者育成助成	(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 0427-25-2576 194　町田市旭町3-6-6	3件 1学会より1名	8月中旬	360万円 1件月額10万円 ×1年間	バイオサイエンス分野の基礎研究を対象とする。本年8月31日現在30歳以下の研究者で、職業をもたない（無職である）国内の大学、国公立の研究所等に在籍している者。
上原財団研究助成	(財)上原記念生命科学財団 03-3985-3500 171 東京都豊島区高田3-25-3	50件	9月８日	1件 500万円	生命科学、とくに健康の増進、疾病の予防および治療に関する次の分野において、独創的な内容の研究に従事している日本在住の研究者。1）栄養学2）薬学一般3）基礎及び臨床医学4）社会医学。
島津研究開発助成	(財)島津科学技術振興財団 075-823-3240 604 京都市中京区西ノ京下合町11番地	総額2,200万円	9月30日必着	1件100～250万円	原則として45才未満の日本人研究者。科学技術、主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究を対象とする。
島津海外研修研究援助		約26件 総額 約390万円	年4回 4月30日 7月31日 10月31日 翌年 1月31日	1件 15万円	科学技術に関する海外の研究集会に研究発表のために出席する研究者および海外留学者を対象とする。原則として40才未満の日本人研究者で、所属機関の責任者の承諾を得ている者。
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 0473-50-6103 279 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後	10月8日必着	金メダル1件500万円	学術上の業績顕著なもの、学術上重要な発見をしたもの、重要な発明により効果が大きいもの、技術上の重要問題を解決し貢献が大きいもの。
東レ科学技術助成		総額1億3千万円	10月8日必着	10件程度 1件につき3,000万円程度まで	科学技術の基礎的な研究に従事し、その研究成果が科学技術の進歩発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を行っている若手研究者。

賞名	授賞団体	授賞件数	提出締切	賞金額	受賞資格
内藤記念科学振興賞	(財)内藤記念科学振興財団 03-3813-3005 113 東京都文京区本郷3-42-6　NKDビル8F	1件	11月20日	金メダル1件300万円	人類の健康に関する自然科学の基礎研究、とくに健康増進、疾病の治療と予防に功績をあげた研究者。
ブレインサイエンス財団研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 03-3273-2565 104 東京都中央区八重洲2-6-20	12件	11月30日	1件 100万円	ブレインサイエンス研究分野（脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域）において、独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者、単独、または共同研究も可。
塚原仲晃記念賞		2件以内	11月30日	1件100万円	生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている45歳以下の研究者。
三菱財団自然科学研究助成	(財)三菱財団 03-3214-5754 100 東京都千代田区丸の内2-5-2　三菱ビル内	30件程度	3月2日	1件 2,000万円以内 総額 約3億円	自然科学の基礎分野における独創的、かつ先駆的研究に対し助成。
山田科学振興財団研究援助	(財)山田科学振興財団 06-757-3311　ext428 544 大阪市生野区巽西1-8-1 ロート製薬(株)内	総額 1億2千万円	3月31日	1件につき 1,000万円以内	自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究、とくに学際的色彩を持つ研究に従事する個人またはグループに対し助成。10件以内。
笹川科学研究奨励助成	日本科学協会 03-3502-1931 105 東京都港区虎ノ門1-15-16　イジカンビル	60～100件	3月16日	1件100万円程度	人文・社会および自然科学（医学を除く）または境界領域に関して、萌芽性、独創性または新規性の強い内容で、1年以内で成果が期待される研究に助成。継続研究も可。35歳以下。
林女性自然科学者研究助成	公益信託林女性自然科学者研究助成基金 03-3277-7497 103 東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井信託銀行内	10数件	3月31日	総額　2,000万円（最高500万円）	化学一般並びに化学に関連ある物理学・生物学の分野で基礎研究に従事する女性研究者およびグループ。
		数件	3月31日 9月30日	総額 300万円	同上研究者の研究発表または共同研究のための海外渡航。
		総計 5～6名	3月31日	2年間、 年額200万円(ポスト), 100万円(プレ)	同上研究者で常勤的職についていない博士号を有する者（ポストドク）または博士号をめざす者（プレドク）
井上学術賞	(財)井上科学振興財団 03-3477-2738 150 東京都渋谷区猿楽町11-20	5件以内	9月20日	1件200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績を挙げた者（ただし締切日現在満50才未満）。
猿橋賞	女性科学者に明るい未来をの会 03-3330-2455 166 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217	1件	11月末日	30万円	自然科学の分野で顕著な業績をおさめた女性科学者（ただし推薦締切日での時点で50歳未満）。

会　員　異　動

＜新入会員＞

（氏名）	（所属）	（住所）	（①テーマ、②材料）
黒谷　明美	文部省宇宙科学研究所宇宙基地利用研究センター	〒229　相模原市由野台3－1－1	①宇宙における動物の初期発生 ②アカハライモリ、ニホンアマガエル
町田　泰則	名古屋大学大学院理学研究科生命理学	〒464-01　名古屋市千種区不老町	①シロイヌナズナの発生
鈴木　徹	水産庁養殖研究所栄養代謝部	〒516-01　三重県度会郡南勢町中津浜浦422－1	
大段　正司	理化学研究所フロンティア研究推進部	〒351-01　和光市広沢2－1	
八木　克将	国立遺伝学研究所無セキツイ動物保存研究室	〒411　三島市谷田1111	
池田　正明	埼玉医科大学第一生理	〒350-04　埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	①脳の発生・分化・可塑性 ②ラット、マウス
鈴木二美枝	千葉大学医学部第二解剖	〒260　千葉市中央区亥鼻1－8－1	①精子形成、受精 ②ラット、マウス等
前川眞見子	千葉大学医学部第二解剖	〒260　千葉市中央区亥鼻1－8－1	①精子形成 ②マウス、ラット等
外山　芳郎	千葉大学医学部第二解剖	〒260　千葉市中央区亥鼻1－8－1	①生殖生物学 ②マウス、ラット、ブタ、ヒト
湯浅　茂樹	千葉大学医学部第二解剖	〒260　千葉市中央区亥鼻1－8－1	①生殖細胞の発生、分化、中枢神経の発生機構（細胞移動、ニューロングリア相互作用） ②マウス、ラット
高橋　弘樹	京都大学大学院理学研究科動物学教室生物分子発生学研究室	〒606　京都市左京区北白川追分町	①ホヤ胚の背索形成に関する遺伝子カスケードの解析 ②マボヤ
㈻吉水朋美	東北大学加齢医学研究所分子発生研究分野	〒980-77　仙台市青葉区星陵町4－1	①マウスＰＧＣの起源について ②マウス
㈻山本　諭	山口大学大学院理学研究科生物学	〒753　山口市大字吉田1677－1	①両生類卵の細胞周期の分子機構の研究 ②アカハライモリ
㈻藤本晃久	三菱化学生命科研究グループＺ	〒194　町田市南大谷11	①哺乳類卵の減数分裂制御機構 ②マウス
㈻川辺祥子	三菱化学生命科研究グループＺ	〒194　町田市南大谷11	①マウス卵の減数分裂制御機構 ②マウス
㈻二階堂昌孝	名古屋大学理学部分子生物学科分子第五講座	〒464-01　名古屋市千種区不老町	①セキツイ動物初期発生におけるパターン形成機構の解析 ②ゼブラフィッシュ
北島　健二	三菱生命科学研究所グループＶ	〒194　町田市南大谷11	①jumonji遺伝子の生体内での機能について ②マウス

氏　名	連絡先
秋田恵一	東京医科歯科大学医学部第二解剖 〒113　文京区湯島 1-5-45 ☎03-5803-5146　FAX 03-5803-0116 k.akita.ana2@med.tmd.ac.jp
網代廣三	愛知県がんセンター研究所 〒464　名古屋市千種区鹿子殿 1-1 ☎052-762-6111
池田正明	埼玉医科大学第一生理 〒350-04埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38　☎0492-76-1150 mikeda@saitama-med.ac.jp
(学)池間泰子	熊本大学理学部生物科学科 〒860　熊本市黒髪 2-39-1 ☎096-342-3429 yasuko@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp
(学)上野陽子	東京都立大学大学院理学部生物学科発生プログラム研究室　〒192-03八王子市南大沢 1-1 ☎0426-77-2573　FAX 0426-77-2559
(学)宇都克裕	九州大学理学部生物学教室 〒812-81福岡市東区箱崎 6-10-1 ☎092-642-2620　FAX 092-642-2645 kautoscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp
大段正司	理化学研究所フロンティア研究推進部 〒351-01和光市広沢 2-1 ☎048-467-9593
(学)岡林浩嗣	東京大学大学院総合文化研究科広域科学浅島研　〒153　目黒区駒場 3-8-1 ☎03-5454-6655
(学)小笠原道生	京都大学大学院理学研究科動物学教室分子発生研　〒606-01京都市左京区北白川追分町　☎075-753-4095 ogasawara@ascidian.zool.kyoto-u.ac.jp
(学)片岡陽平	京都大学理学研究科生物物理学教室竹市研究室　〒606-01京都市左京区北白川追分町　☎075-753-4195
(学)加藤史子	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻生命誌研究館　〒569-11高槻市紫町 1-1 ☎0726-81-9754　FAX 0726-81-9757 Noriko.Kato@ims.brh.co.jp
(学)川辺祥子	三菱化学生命科学研究所グループZ 〒194　町田市南大谷 11 ☎0427-24-6265　FAX 0427-24-6316 kawabe@libra.ls.m-kagaku.co.jp
岸昌生	雪印乳業㈱受精卵移植研究所 〒059-13苫小牧市植苗 119 ☎0144-58-2339　FAX 0144-58-2928
(学)北沢千里	東京大学大学院理学系研究科 〒113　文京区本郷 7-3-1 ☎03-3812-2111
北島健二	三菱化学生命科学研究所グループV 〒194　町田市南大谷 11 ☎0427-24-6267　FAX 0427-24-6314
(学)北出幸広	東海大学海洋学部海洋科学科嵯峨研究室 〒424　清水市折戸 3-20-1 ☎0543-34-0411
(学)木戸麻実	〒227　横浜市青葉区千草台 4-10　藤原様方　☎045-973-7175 x11@fly.erato.jst.go.jp
黒谷明美	文部省宇宙科学研究所宇宙基地利用研究センター　〒229　相模原市由野台 3-1-1　☎0427-51-3911
(学)越田澄人	名古屋大学理学部分子生物学科第五講座 〒464-01名古屋市千種区不老町 ☎052-789-2997 f960308d@eds.ecip.nagoya-u.ac.jp
小林麻己人	自治医科大学生物学教室 〒329-04栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-1　☎0285-44-2111
(学)後藤友二	北海道大学大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻生態遺伝学講座 〒060　札幌市北区北 10条西 8丁目 ☎011-706-3588 goto@eesbio.hokudai.ac.jp
(学)坂本啓	東京医科歯科大学歯学部口腔病理 〒113　文京区湯島 1-5-45 ☎03-5803-5453
嵯峨井知子	国立遺伝学研究所哺乳動物 〒411　三島市谷田 1111 ☎0559-81-6814　FAX 0559-81-6817
佐藤知秀	〒158　世田谷区等々力 6-24-5 ☎03-3702-8705
(学)澤田篤志	名古屋大学理学部分子生物学科第五講座 〒464-01名古屋市千種区不老町 ☎052-789-2997 f930114b@eds.ecip.nagoya-u.ac.jp
(学)霜鳥太信	三重大学教育学研究科生物学教室後藤研究室　〒514　津市上浜町 1515 ☎059-231-9260 simotori@edu.mie-u.ac.jp
白井学	大阪大学微生物病研究所難治疾患バイオ分析部門遺伝子疾患分野　〒565　吹田市山田丘 3-1 ☎06-879-8325　FAX 06-879-8326 mshirai@biken.osaka-u.ac.jp
(学)新屋みのり	名古屋大学理学部分子生命学科 〒464-01名古屋市千種区不老町 ☎052-789-2997 f960318m@eds.ecip.nagoya-u.ac.jp
鈴木徹	水産庁養殖研究所栄養代謝部 〒516-01三重県度会郡南勢町中津浜浦 422-1　☎05996-6-1830
鈴木二美枝	千葉大学医学部第二解剖 〒260　千葉市中央区亥鼻 1-8-1 ☎043-222-7171

氏　名	連絡先
宋　敏鎬	〒468　名古屋市天白区原 2-508　リバーサイドヒルズ406 ☎052-808-1531
高橋弘樹	京都大学大学院理学研究科動物学教室生物分子発生学研究室　〒606　京都市左京区北白川追分町 ☎075-753-4095
(学)武居明男	九州大学理学部生物学教室 〒812-81福岡市東区箱崎 6-10-1 ☎092-642-2638 takesue@bio-math10.biology.kyushu-u.ac.jp
(学)田渕克彦	大阪大学医学部附属バイオメディカル教育研究センター神経機能解剖 〒565　吹田市山田丘 2-2 ☎06-879-3581
(学)塚本康浩	大阪府立大学農学部獣医学科獣医病理学講座　〒593　堺市学園町 1-1 ☎0722-52-1161
寺岡宏樹	酪農学園大学獣医学部毒性学教室 〒069　江別市文京台緑町 582-1 ☎011-386-1114
外山芳郎	千葉大学医学部第二解剖 〒260　千葉市中央区亥鼻 1-8-1 ☎043-222-7171
(学)中村由紀	大阪大学医学部附属バイオメディカルセンター高次神経医学部門　〒565　吹田市山田丘 2-2　☎06-879-3581
南部滋郎	産業医科大学産業保健学部第一生体情報学　〒807　北九州市八幡西区医生ケ丘 1-1　☎093-691-7227 zf-nambu@health.uoeh-u.ac.jp
(学)二階堂昌孝	〒466　名古屋市昭和区川名山町 51-1 川名山ビル501　☎052-837-1970
(学)西崎有利子	大阪大学細胞生体工学センター 〒565　吹田市山田丘 1-3 ☎06-879-7964　㊫06-877-1738 i64591a@center.osaka-u.ac.jp
西原克成	東京大学医学部口腔外科学教室 〒113　文京区本郷 7-3-1 ☎03-3815-5411
(学)野村　真	名古屋大学理学部生命理学科 〒464-01名古屋市千種区不老町 ☎052-789-2981 nomura@bio.nagoya-u.ac.jp
(学)橋本和枝	名古屋大学理学部生命理学研究科 〒464-01名古屋市千種区不老町 ☎052-789-2997 f930205b@eds.ecip.nagoya-u.ac.jp
彦野弘一	農林水産省家畜衛生試験場免疫細胞研究室　〒305　つくば市観音台 3-1-1 ☎0298-38-7790

氏　名	連絡先
(学)藤本晃久	三菱化学生命科学研究所グループZ 〒194　町田市南大谷 11 ☎0427-24-6265　㊫0427-24-6316 fujimoto@libra.ls.m-kagaku.co.jp
舟橋久幸	東京都老人総合研究所生体情報部門 〒173　板橋区栄町 35-2 ☎03-3964-3241　㊫03-3579-4776
前川眞見子	千葉大学医学部第二解剖 〒260　千葉市中央区亥鼻 1-8-1 ☎043-226-2020
真壁和裕	京都大学大学院理学研究科動物学教室 〒606-01京都市左京区北白川追分町 ☎075-753-4102　㊫075-705-1113
町田泰則	名古屋大学大学院理学研究科生命理学 〒464-01名古屋市千種区不老町 ☎052-789-2502
丸山千秋	理化学研究所細胞生理学研究室 〒351-01和光市広沢 2-1 ☎048-462-1111
(学)万徳　剛	北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻生体情報分子学講座2　〒060　札幌市北区北 10条西 8丁目 ☎011-706-3522 tmantoku@bio.hokudai.ac.jp
(学)三上敏郎	北海道大学大学院理学研究科生物科学 〒060　札幌市北区北 10条西 8丁目 ☎011-706-3522　㊫011-706-3522 tmikami@bio.hokudai.ac.jp
(学)八木克将	国立遺伝学研究所無セキツイ動物保存研究室　〒411　三島市谷田 1111 ☎0559-81-6825　㊫0559-81-6825 yyagi@lab.nig.ac.jp
(学)山口雅裕	北海道大学理学研究科生物科学 〒060　札幌市北区北 10条西 8丁目 ☎011-716-2111 guti@bio.hokudai.ac.jp
(学)山本　諭	〒753　山口市大字平井 580-10　司荘 103　☎0839-28-8230
山本雅和	名古屋大学理学部生命理学 〒464-01名古屋市千種区不老町 ☎052-789-2997 f933455d@eds.ecip.nagoya-u.ac.jp
湯浅茂樹	千葉大学医学部解剖学第二講座 〒260　千葉市中央区亥鼻 1-8-1 ☎043-226-2019
(学)吉水朋美	東北大学加齢医学研究所分子発生研究分野　〒980-77仙台市青葉区星陵町 4-1 ☎022-717-8486　㊫022-717-8488 tyoshi@idac.tohoku.ac.jp
(学)渡辺英明	熊本大学理学部生物科学科 〒860　熊本市黒髪 2-39-1 ☎096-342-3429

氏　名	連絡先
石原朋子	c/o Dr.D.Herzlimger, Dept.of Physiology, Cornell Univ.of Medical College, 1300 York Ave., New York, NY 10021, U.S.A. ☎212-746-6377
小瀬博之	Dept.of Cell & Structural Biology, Univ.of Illinois at Urbana-Champaign, 601 S.Goodwin Ave., Urbana, IL 61801, U.S.A. ☎217-244-8963 kose@life.uiuc.edu

南部　滋郎	産業医科大学産業保健学部第一生体情報学	〒807	北九州市八幡西区医生ヶ丘1－1	①アルテミア発生と糖代謝 ②アルテミア
山本　雅和	名古屋大学理学部生命理学	〒464-01	名古屋市千種区不老町	①肢芽パターン形成における Hox-α Abd-B遺伝子群の機能 ②ニワトリ、マウス
彦野　弘一	農林水産省家畜衛生試験場免疫細胞研究室	〒305	つくば市観音台3－1－1	①家畜の血球細胞の分化・増殖 ②ウシ、ニワトリ
佐藤　知秀		〒158	世田谷区等々力6－24－5	①アポトーシス、歯牙の発生 ②マウス歯胚
白井　　学	大阪大学微生物病研究所難治疾患バイオ分析部門遺伝子疾患分野	〒565	吹田市山田丘3－1	①個体発生時における遺伝子制御機構の解明 ②マウス
秋田　恵一	東京医科歯科大学医学部第二解剖	〒113	文京区湯島1－5－45	①肢芽のパターン形成 ②ニワトリ
舟橋　久幸	東京都老人総合研究所生体情報部門	〒173	板橋区栄町35－2	①動物の固体発生における細胞表面膜糖鎖の果たす機能 ②マウス
岸　　昌生	雪印乳業㈱受精卵移植研究所	〒059-13	苫小牧市植苗119	①哺乳類の発生について
嵯峨井知子	国立遺伝学研究所哺乳動物	〒411	三島市谷田1111	①形態形成遺伝子 ②マウス
㈻北沢千里	東京大学大学院理学系研究科	〒113	文京区本郷7－3－1	①ウニ初期胚に対するLiの影響 ②バフンウニ、ハスノハカシパン、ヨツアナカシパン等
㈻後藤友二	北海道大学大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻生態遺伝学講座	〒060	札幌市北区北10条西５丁目	①マウス初期胚発生における母由来過剰×染色体の影響 ②Mus musculus domesticus
㈻澤田篤志	名古屋大学理学部分子生物学科第五講座	〒464-01	名古屋市千種区不老町	①形態発生 ②ゼブラフィッシュ
㈻新屋みのり	名古屋大学理学部分子生物学科	〒464-01	名古屋市千種区不老町	①発生 ②ゼブラフィッシュ
㈻越田澄人	名古屋大学理学部分子生物学科第五講座	〒464-01	名古屋市千種区不老町	①初期胚における形態形成の分子メカニズム ②ゼブラフィッシュ
㈻橋本和枝	名古屋大学理学部生命理学研究科	〒464-01	名古屋市千種区不老町	①胚芽パターン形成における Hox-α Abd-B遺伝子群の機能 ②ニワトリ
㈻片岡陽平	京都大学理学研究科生物物理学教室竹市研究室	〒606-01	京都市左京区北白川追分町	①分子発生学 ②Drosophila melanogaster
㈻加藤史子	誌研究館	〒569-11	高槻市紫町1－1	①体節由来組織の形態形成 ②ニワトリ、ウズラ

㈻池間泰子	熊本大学理学部生物科学科	〒860 熊本市黒髪2−39−1	①アフリカツメガエルにおける減数分裂開始に併なって発現する分子の検索 ②Xenopus Laevi
㈻渡辺英明	熊本大学理学部生物科学科	〒860 熊本市黒髪2−39−1	①精子形成細胞の形態変化 ②Xenopus Laevis
㈻三上敏郎	北海道大学大学院理学研究科生物科学	〒060 札幌市北区北10条西8丁目	①可溶性型グアニル酸シクラーゼの発現調節解析 ②メダカ
㈻西崎有利子	大阪大学細胞生体工学センター	〒565 吹田市山田丘3−1	①転写因子ＨＮＦ３βの発現調節メカニズム ②マウス
㈻田渕克彦	大阪大学医学部附属バイオメディカル教育研究センター神経機能解剖	〒565 吹田市山田丘2−2	①神経の発生、分化を制御する因子の単離と解析 ②Drosophila
㈻小笠原道生	京都大学大学院理学研究科動物学教室分子発生研	〒606-01 京都市左京区北白川追分町	①内柱、鰓裂をつうじてみた背索動物の起源と進化の分子系統発生学的解析 ②マボヤ、カタユウレイボヤ
㈻上野陽子	東京都立大学大学院理学部生物学科発生プログラム研究室	〒192-03 八王子市南大沢1−1	①ホヤのホメオボックス遺伝子
㈻武居明男	九州大学理学部生物学教室	〒812-81 福岡市東区箱崎6−10−1	①数理生物学
㈻霜鳥太信	三重大学教育学研究科生物学教室後藤研究室	〒514 津市上浜町1515	①毛顎動物の発生現象 ②カエデイソカムシ
㈻宇都克裕	九州大学理学部生物学教室	〒812-81 福岡市東区箱崎6−10−1	①卵成熟機構の解析 ②アフリカツメガエル
㈻木戸麻実	お茶の水女子大学理学部生物学科	〒112 文京区大塚2−1−1	①ショウジョウバエの性行動に関わる脳内構造の解析 ②ショウジョウバエ
㈻坂本　啓	東京医科歯科大学歯学部口腔病理	〒113 文京区湯島1−5−45	①神経発生 ②トリ
㈻山口雅裕	北海道大学理学研究科生物科学	〒060 札幌市北区北10条西8丁目	①両生類の変態 ②エゾサンショウウオ
野村　真	名古屋大学理学部生命理学科	〒464-01 名古屋市千種区不老町	①神経発生生物学 ②ニワトリ
㈻中村由紀	大阪大学医学部附属バイオメディカルセンター高次神経医学部門神経機能解剖	〒565 吹田市山田丘2−2	①神経発生生物学 ②マウス

＜会員資格変更＞

学生→正会員

末松　直也	聖マリアンナ医科大学生化学教室	〒216　川崎市宮前区菅生2－16－1
箕田　康一	北海道大学理学部動物学教室	〒060　札幌市北区北10条西８丁目
饗庭　一博	科学技術振興事業団 土居バイオアシンメトリプロジェクト	〒300-26　つくば市東光台5－9－4 筑波研究コンソーシアム
嶋田　　新	農林水産省農業生物資源研究所 遺伝資源第二部動物保存研究チーム	〒305　つくば市観音台2－1－2
白崎　竜一	大阪大学基礎工学部生物工学科	〒560　豊中市待兼山町1－3
大久保　悌	Univ.of California,San Francisco, LPPI	401 Parnassas Ave., San Francisco, CA 94143-0984, U.S.A

国内→海外

石原　朋子	c/o Dr,D,Herzlimger, Dept. of Physiology, Cornell Univ.of Medical College	1300 York Ave., New York, NY 10021, U.S.A
刀祢　重信	c/o Prof. Earnshaw, Inst. of Cell & Molecular Biology, Univ. of Edinburgh	Mayfield Rd., Edinburgh EH9 3JR, Scotland, U.K.
清水　克彦	Dept. of Molecular, Cellular & Developmental Biology, Marine Science Inst.	Univ. of California, Santa Barbara, CA 93106, U.S.A
中山　広樹	Samuel Lunenfeld Res. Inst. (Room 880), Mount Sinai Hosp.	600 Univ. Ave., Toronto, Ontario M5G 1X5, Canada
松村　清隆	The Marine Biological Association of the United Kingdom, The Laboratory	Citadel Hill, Plymouth, PL1 2PB, U.K.
川瀬栄八郎	Dept. Obstetrics, Gynecology & Reproductive Science, Univ. of California	San Francisco, CA 94143-0556, U.S.A
大久保　悌	Univ.of California San Francisco, LPPI	401 Parnassas Ave., San Francisco, CA 94143-0984, U.S.A

海外→国内

広海　　健	国立遺伝学研究所	〒411　三島市谷田1111

復活

井上　高良	京都大学理学部生物物理学教室	〒606-01　京都市左京区北白川追分町
滝沢　　聡	東京工業大学生命理工学部生命理学科 分子発生学講座	〒226　横浜市緑区長津田町4259
亀山　俊樹	名古屋大学理学部生物学教室神経生物学講座	〒464-01　名古屋市千種区不老町

＜住所変更＞

所属機関変更

江口　吾朗	熊本大学	〒860　熊本市黒髪2－39－1
真崎　雄一	京都大学ウイルス研究所	〒606－01　京都市左京区聖護院川原町
浅野　　朗	月田プロジェクト	〒600　京都市下京区中堂寺南町17 京都リサーチパーク内
嶋田　　新	農林水産省農業生物資源研究所 遺伝資源第二部動物保存研究チーム	〒305　つくば市観音台2－1－2
野呂知加子	農林水産省蚕糸・昆虫農業技術研究所 遺伝育種部発生分化研究室	〒305　つくば市大わし1－2
末盛　博文	明治乳業ヘルスサイエンス研究所 生体「シグナル伝達」プロジェクト	〒250　小田原市成田540
野口　　茂	明治乳業ヘルスサイエンス研究所 生体「シグナル伝達」プロジェクト	〒250　小田原市成田540

所在地変更

大原たかね	㈱アールテック・ウエノ	〒103　中央区日本橋本町2－5－5 上野製薬ビル２Ｆ
安本　　茂	神奈川県立がんセンター研究所分子腫瘍	〒241　横浜市旭区中尾1－1－2
金谷　一司	日本抗体研究所	〒370　高崎市西横手351
清水　　健	国立国際医療センター研究所 感染熱帯病研究部細菌感染研究室	〒162　新宿区戸山1－21－1
上田　　均	国立遺伝学研究所形質遺伝研究部門	〒411　三島市谷田1111
大滝　哲也	二松学舎大学沼南校	〒277　千葉県東葛飾郡沼南町大井2590

＜退会＞

大西　英爾	久佐　　守	倉本　　満	小嶋　　学	島倉亨次郎	鈴木　昭憲
別所　親房	細川　和子	堀内　四郎	鈴木えみ子	小林　弘治	三上かおり
田辺　　力	山田　俊平	鈴木　浩文	杉岡　美保	荒井　俊光	平田　　丞
荘司　聡子	山形　達也	東海林隆次郎	小池　　敏	東口　卓史	前田ひとみ
三木　俊彦	畑田　出穂	五島　忠篤			

〔賛助会員〕

研究者のニーズにハートで応える**㈱池田理化**

〒101　千代田区鍛冶町1－8－6神田ＫＳビル
ＴＥＬ　03－5256－1051

㈲共進理工“細胞分別”ナイロンメッシュ

〒113　文京区本郷5－13－1ドエル本郷205
ＴＥＬ　03－3813－1073

生物学・生態学洋書のことなら**グリーン洋書㈱**

〒210　川崎市幸区塚越2－260
ＴＥＬ　044－533－0470

生命誌研究館

〒569　高槻市紫町1－1
ＴＥＬ　0726－81－9750

先端テクノロジーをサポートする**日京テクノス㈱**

〒113　文京区本郷2－17－8鈴木ビル
ＴＥＬ　03－3814－2066

㈱ヘリックス研究所

〒292　千葉県木更津市天那1532－3
ＴＥＬ　0438－52－3951

三菱化学生命科学研究所

〒194　町田市南大谷11
ＴＥＬ　0427－24－6226

明治乳業㈱ヘルスサイエンス研究所

〒250　小田原市成田540
ＴＥＬ　0465－37－3661

試薬及び理化学機器販売の**理科研㈱**

〒463　名古屋市守山区元郷2－107
ＴＥＬ　052－798－6151

技術と信頼でライフサイエンスの明日を担う**和研薬㈱**

〒606　京都市左京区北白川西伊織町25
ＴＥＬ　075－721－8111

日本発生生物学会への入会について

同封の「申し込み票」および「会員カード」に必要事項を御記入の上、日本学会事務センター宛お届け下さい。

ご参考までに学会事業の内容をお知らせ致します。

a）学会誌の刊行

Development,Growth & Differentiation

年1巻、6冊刊行

b）年1回、研究発表のほか、招待講演、シンポジウムなどがあり、また、会則による総会が開かれます。大会講演要旨集が予め全会員に配布されます。

c）インフォメーション・サーキュラー

大会の予告、予算案、決算、運営委員会の報告など、学会の事業の連絡やその他会員の消息、関連学会の動きなどを登載したサーキュラーが年3～4回配布されます

d）和文単行書の編集

学会内の委員会の企画により、単行書を編集し刊行しています。会員は（刊行後一定期間に限り）割引価格で購入できます。既刊分は「発生における制御」「初期発生における細胞」「エイジングの生物学」「動物の器官形成」「受精の生物学」「変態の生物学」「発生における分子識別」です。

なお、会費は前納制です。前年度末までに、次年度の会費をご納入下さい。

会費、発送物、入退会、住所変更に関する問い合わせ先は

〒113　東京都文京区本駒込5－16－9 学会センターC21

（財）日本学会事務センター　日本発生生物学会　係

TEL03－5814－5810

学生の方は、学生証のコピーを添付して、お申込み下さい。

なお学生資格は、学部学生、大学院生、及び大学、研究所等で、学生証あるいはそれに準ずる証明書を有する学生、研究生等です。

----------切　り　取　り　線----------

日本発生生物学会入会申し込み票

（　年　月　日）

氏名	氏名ローマ字綴り （フル・ネーム）
研究主題（もしくは関心のあるテーマ）	所属機関名とその所在地 （電話　　内線　　）（〒　）
研究材料名（和名・学名など）	（ファックス） eメールアドレス 上記以外に連絡を希望される場合の連絡場所 （自宅の場合は自と記入のこと） （〒　）
会への要望	

（Ⅰ）会員カードの記入要領

1．会員カードはすべてコンピューターに記憶させますので楷書ではっきり記入して下さい。また指定箇所には、「フリガナ」または「ローマ字」で記入して下さい。

2．氏名は点線の左側に姓、右側に名を記入して下さい。

3．郵便番号は所定の欄に記入して下さい。

4．所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入して下さい。

5．学歴は最終卒業学校名、卒業年（西暦）を記入して下さい。
修士・博士課程在学中の方は研究科、課程まで、学部在学中の方は在学学校名、在学学年を記入して下さい。

6．性別・専門・連絡先（＝会誌等送付先）・会員種別については、該当するものを○でかこんで下さい。

7．本会の会計年度は、1月～12月です。入会年度を所定の欄に必ず記入して下さい。

8．＊印の欄には記入しないで下さい。

（Ⅱ）会費の送金方法について

1．会員カードを返送していただいてから1か月以内に請求書を発行しますので最寄りの郵便局または銀行よりお振り込み下さい。

（注）現住所、所属機関等、会員カードの記載事項に変更があった場合はただちに、書面でご連絡下さい。
入会申込書は必ずご返送下さい。

財団法人　日本学会事務センター
日本発生生物学会会員係
〒133　東京都文京区本駒込5－16－9
学会センターC21
TEL03－5814－5810

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会
会長　岡田益吉

近年，ライフサイエンス，バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ，生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は，発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で，日本を主に，外国の発生学者を混じえて約1,200名を結集しております。発生学は，言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており，最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題，癌細胞の基礎的研究，老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は，これらの分野での活発な研究者を会員としております。又，本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”（DGD）もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては，このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒，本学会趣旨に御賛同の上，賛助会員として本会を御支援賜りますよう御願い申し上げます。

なお，賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され，本会の刊行する欧・和文刊行物（会員名簿を含む）が配布されます。会費は，一口三万円を申し受けております。御入会の際は，入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局（浅島　誠）
〒153　東京都目黒区駒場3－8－1
東京大学大学院総合文化研究科生命環境系(生物)
TEL(03)5454-6632(直通) FAX(03)3485-2904

----------切------り------取------り------線----------

日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年　　月　　日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(＿＿＿＿口＿＿＿＿円)

住　所

会社名　　㊞

担当者名
電話番号

広告掲載のお願い

日本発生生物学会は理学，医学，薬学，農学をはじめ分子生物学，細胞生物学，遺伝学など，さまざまな生物学分野で発生生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり，国内外に約1,200人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は，日本発生生物学会の機関誌で年6回発行し，国内に約1,200部，国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下，本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等，是非ご協力頂きますようお願い致します。

広　告　料			
DGD本誌	1　頁	年6回	150,000円
	半　頁	〃	78,000円
インフォメーション	1　頁	年3回	90,000円
サーキュラー	半　頁	〃	45,000円

尚、サーキュラー用の版下作製代は実費をいただきます。裏表紙は1頁10,000円高となります。

申し込み先：日本発生生物学会事務局（浅島 誠）

〒153　東京都目黒区駒場3－8－1
東京大学大学院総合文化研究科生命環境系(生物)
TEL(03)5454-6632(直通) FAX(03)3485 2904

----------切　り　取　り　線----------

広告申し込み書

年　　月　　日

日本発生生物学会　御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

□ DGD本誌　1　頁
□ 〃　半　頁
□ サーキュラー　1　頁
□ 〃　半　頁

住　所

会社名　　㊞

担当者名
電話番号

Amenience のヤマト科学

Yamato

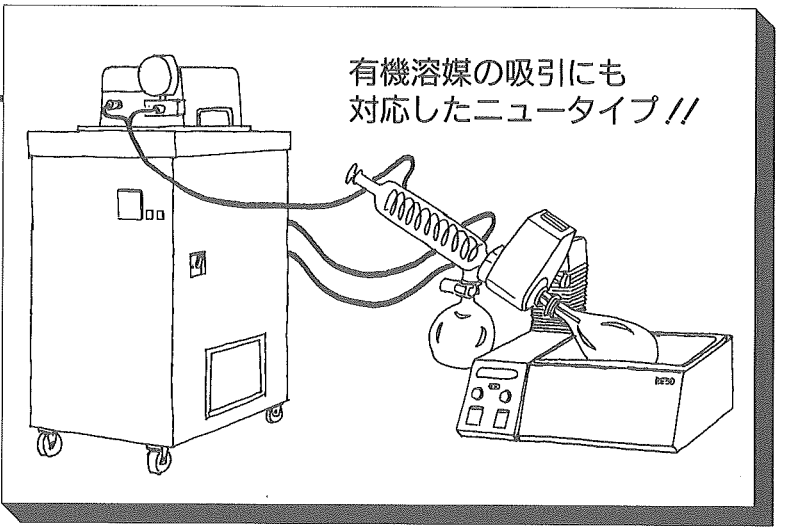
新排水基準対応形——ネオクールアスピレーター

CF600P型

- 減圧と冷却を同時に行うCF600P型は、ジクロロメタン、ベンゼン等の流出を低く抑えており、ロータリーエバポレーターの減圧装置として排水基準をクリアできます。
- 1台で2台のロータリーエバポレーターに接続できます。
- 真空調節器(標準外)の使用により吸引条件を制御できロータリーエバポレーターの回収フラスコへの回収率がアップします。
- 特定フロン対応冷凍機を搭載しています。

■主な仕様

使用温度範囲	−10〜+30℃
温度調節器	デジタル温度調節器
外形寸法	幅364×奥行494×高さ1,007mm



ヤマト科学 株式会社　本社：〒103 東京都中央区日本橋本町二丁目1番6号
TEL(03)3231-1132

講談社の自然科学専門書

英語論文セミナー　現代の発生生物学　新刊

丸山　工作　監修／浅島　誠・大日方　昴・松田　良一　編集

A4・174頁・定価3,500円(税込)

現代発生生物学の展開を英語論文でたどる。ゲノムの不変性を示した核移植の論文から、細胞接着、ホメオボックス遺伝子、アポトーシス、細胞分化誘導因子など、発生生物学の新しいテーマを扱った論文を紹介。

英語論文セミナー　現代の細胞生物学

丸山　工作　監修／馬渕　一誠・山本　正幸　編集

A4・174頁・定価3,500円(税込)

英語論文で解き明かす現代細胞生物学の真髄。細胞運動の分子装置と細胞骨格、シグナル伝達とがん遺伝子、細胞膜における受容体やチャネルの働きなど、ますます発展する細胞生物学の核となる論文を紹介する。

英語論文セミナー　現代の分子生物学

丸山　工作　監修／渡辺　公綱・桂　勲　編集

A4・174頁・定価3,500円(税込)

この一冊で珠玉の英語論文がスラスラ読める。現代分子生物学にインパクトを与えた論文18編を精選し、第一線の研究者が解説と訳注を執筆。遺伝子発現、RNAワールド、分子シャペロンなど興味深いテーマを満載。

東京都文京区音羽2−12−21
振替 東京8−3930

講談社

編集部☎03(3235)3701
販売部☎03(5395)3624

研究用試薬

ザイナキシス社

生細胞の染色に

細胞蛍光標識キット

Cell Linker Technologyに基づく細胞染色法で，細胞膜に高親和性を持つ新しいタイプの蛍光色素PKH2またはPKH26蛍光色素と希釈液とを組み合わせた，細胞蛍光標識キットです．

細胞機能に影響しません

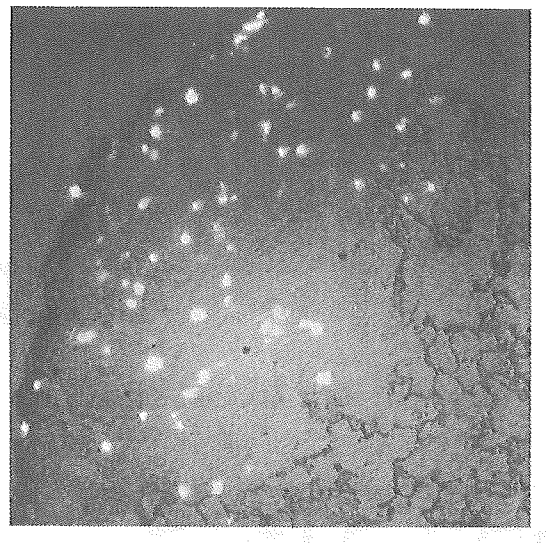
細胞と数分間混合するだけで，生細胞をその機能を損うことなく染色可能で，細胞の移動や増殖のモニタリングに大きな威力を発揮します．

簡便です

従来^{51}Cr等を用いて行われていたLAK細胞のモニタリングやNK活性の測定が簡便に，しかも安全に行うことができます．

安定です

ウサギ赤血球を標識した場合，PKH26ではin vivoでその溶出の半減期が100日以上を示し，長期のモニタリングが可能です．



Tumor Localization of PKH26 Labeled TILs.
マウス肺癌組織に浸潤している，PKH26で染色したIL-2処理リンパ球が観察されます．

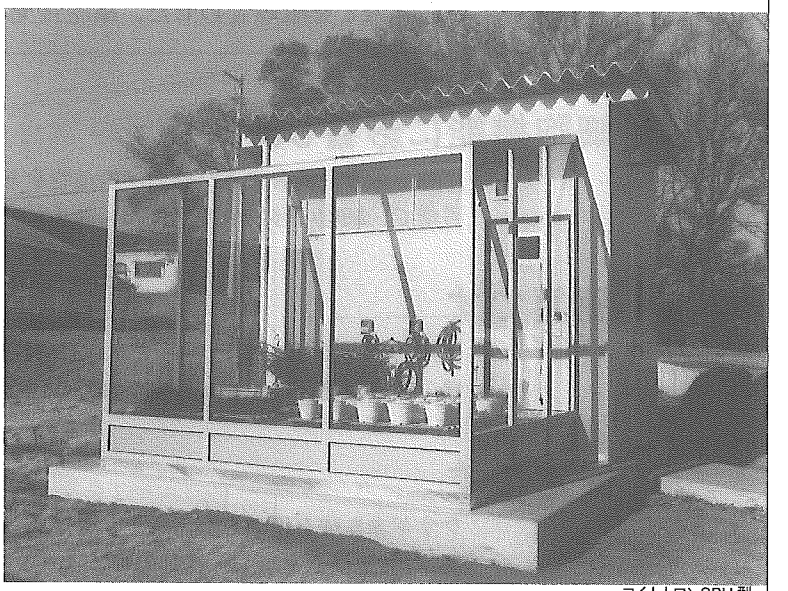
Photo Courtesy of
Drs. Per Basse & Ronald H. Goldfarb
Pittsburgh Cancer Institute, Pittsburgh, PA

発売元 大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164(代表)
東京 (03)3828-6544(代表)

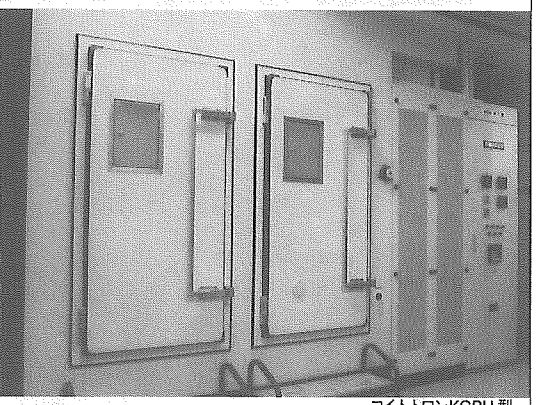
KoiTo
安全と快適を求めて

バイオ関連の試験・研究をバックアップ



コイトトロンSBH型

小糸工業のバイオハザード対応グロースキャビネットは、周囲環境の影響を受けずに、圧力コントロールシステムで実験室内を陰圧に保持します。また、コンパクトで高性能なフィルターユニットとの組み合わせで、実験対象物への空気流による外界からの悪影響を遮断、簡単操作機能をプラスして、高精度な温・湿度を再現します。



コイトトロンKGBH型

バイオハザード対応グロースキャビネット

コイトトロンSBH/KGBHシリーズ

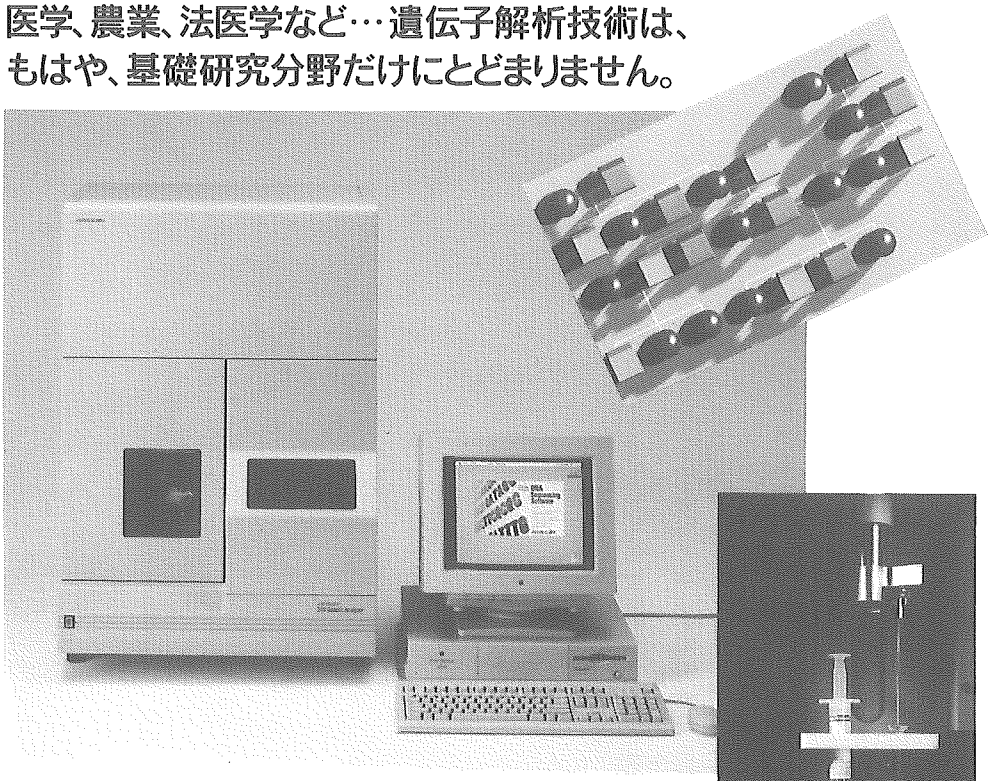
小糸工業株式会社

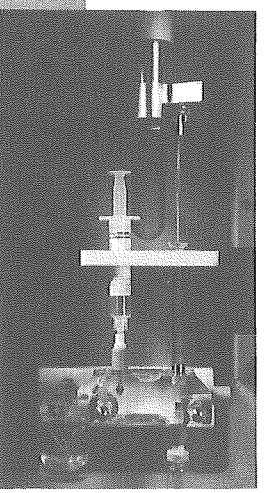
東京本部　〒108 東京都港区高輪3丁目5番23号 (日生高輪台ビル)　☎03(3443)9846　FAX.03(3443)6570
札幌 011(722)5211　東北 022(225)7501　大阪 06(263)6371　九州 092(431)0838　筑波 0298(51)2311　沖縄 098(861)1805

ＤＮＡシーケンシング＆ＤＮＡフラグメント解析

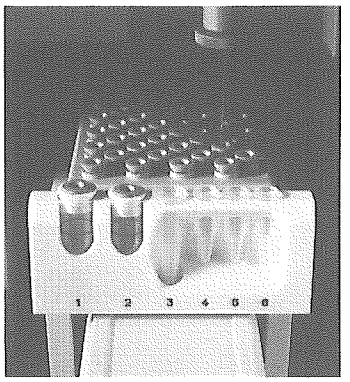
ABI PRISM™ 310 Genetic Analyzer

医学、農業、法医学など…遺伝子解析技術は、もはや、基礎研究分野だけにとどまりません。





ポリマー自動充填用シリンジポンプ



サンプル自動インジェクション用トレイ

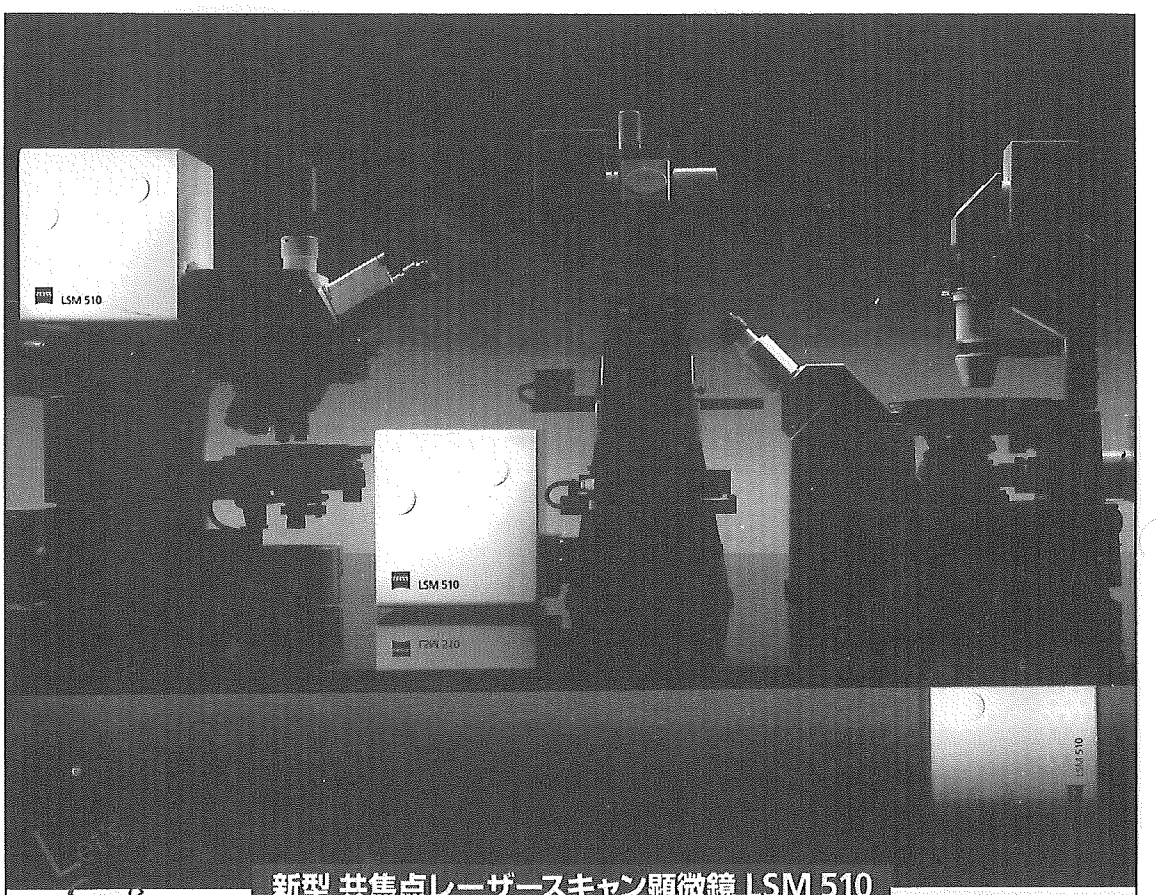
ABI PRISM™ 310 ジェネティックアナライザは、多色蛍光標識技術とキャピラリ電気泳動技術を統合した、サイズ決定・定量などの遺伝子解析および核酸の配列解析を行える、初めての自動システムです。

- 使いやすく、データの再現性が抜群
- 特許の多色蛍光標識法により、シングルキャピラリによる解析を実現
- フラグメント解析では、多様なアプリケーションに対応し、泳動時間も約20～40分と大幅に短縮

PE Applied Biosystems
A DIVISION OF PERKIN-ELMER

株式会社 パーキンエルマー ジャパン
アプライド バイオシステムズ 事業部

本　社 〒279 千葉県浦安市美浜1-9-2　☎0473 (80) 8500/FAX 0473 (80) 8505
名古屋 〒464 愛知県名古屋市千種区池下町2-15　☎052 (764) 1201/FAX 052 (764) 1202
大　阪 〒564 大阪府吹田市豊津町5-3　☎06 (389) 1201/FAX 06 (389) 1206
福　岡 〒810 福岡県福岡市中央区赤坂1-16-10　☎092 (771) 2755/FAX 092 (771) 2756



See More

新型 共焦点レーザースキャン顕微鏡 LSM 510

コンパクトそして多機能

一点の妥協もなく

あなたが評価するのは柔軟な対応力ですか？それとも最高のテクノロジーでしょうか？
LSM510は、その全てを備えています。
革新的な最高の技術、極めて扱いやすいソフトウェアがもたらす抜群の操作性、コンパクトで交換容易なスキャニングモジュールなど。
徹底した妥協を許さない物作りの精神が、ここにあります。

斬新なスキャニング手法

極めてユニークなスキャニング法を採用、スキャニングエリアの設定も自由自在。従って、思いのままの不定形のスキャンが可能です。
全ての3D表示、各種測定法と相まって、試料情報を余すところなく表現します。
かつて、顕微鏡に抱かれていた様々な期待が、今ここに実現します。

新しい品質基準の画像

蛍光の4ch、同時取得、各ピンホールはコンピュータコントロールされ、2,048×2,048ピクセルの高精細スキャン、4×12bitの高分解能をはじめとして、積算、オーバサンプリング、フォトンカウンティングなど、LSM510の諸機能は、全て研究者への奉仕にあります。

ZEISS

ドイツ、ツァイスグループ
カールツァイス株式会社 顕微鏡部
〒160 東京都新宿区本塩町22番地
☎03-3355-0332　Fax.03-3358-7554
大阪☎06-282-4322　名古屋☎052-777-1411
福岡☎092-713-7821　仙台☎022-224-5621